

6 - 2 中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1986年1月 - 6月）

Seismic Activity in the Northwestern Chubu Region (including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula Regions) January - June, 1986

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

Kamitakara Crustal Movement Observatory
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

前報¹⁾に引続き，中部地方北西部の地震活動について報告する。

第1図はこの地方全域における1986年1月 - 6月の地震活動状況を示す。このうち1月より3月迄の活動については，すでに前報に報告されているので，ここでは4月以降の主な地震活動について述べる（以下の説明文中の番号は第1図に示した番号に対応する）。

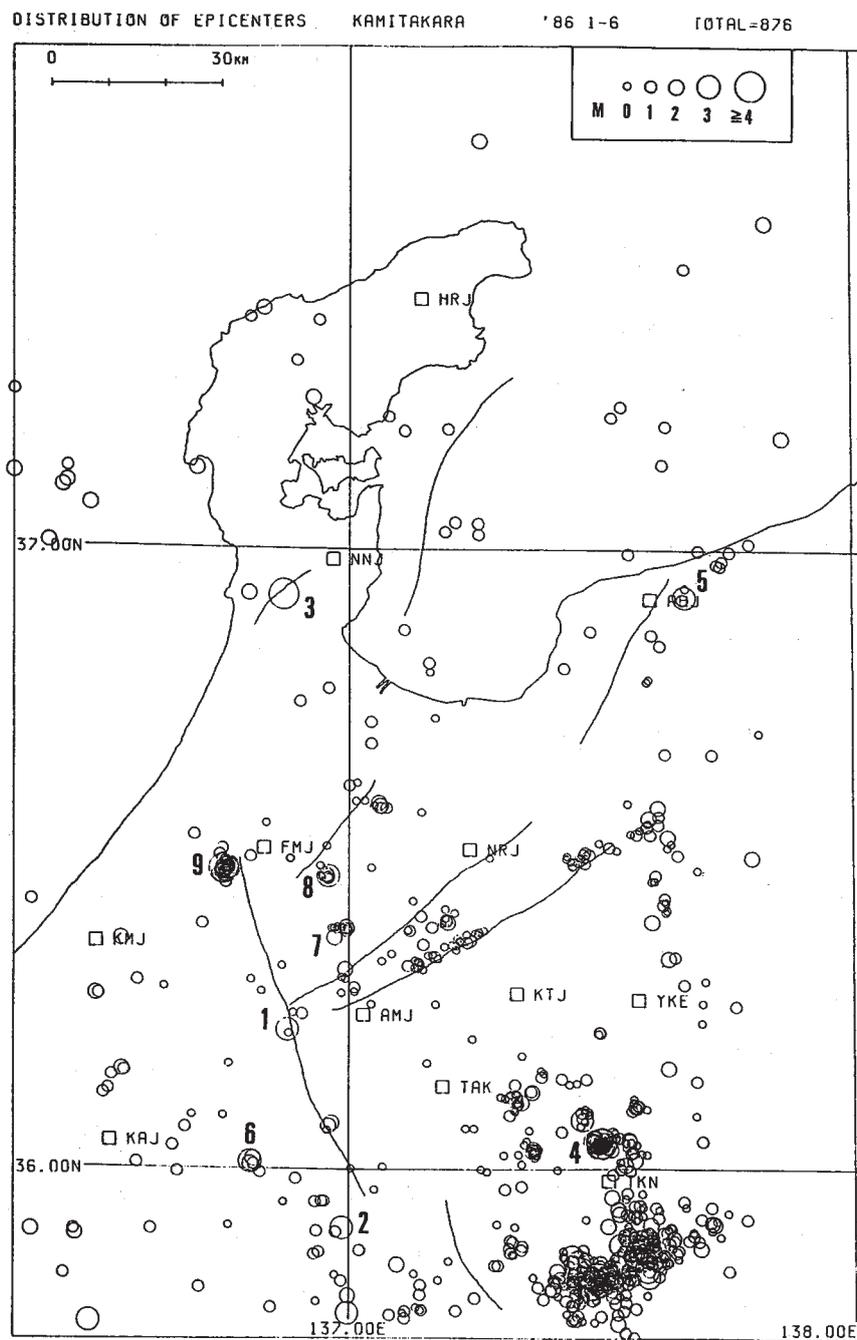
この期間中，4/1 御母衣断層中央部で M3.4 (1)，その南方の岐阜県明方村で 4/2 M3.3 の地震 (2)，4/14 には能登半島南部羽咋市東方で M4.0，深さ 18km の地震 (3) が発生した。(3) の地震のメカニズムは第5図 (a) に示すように，WNW-ESE 方向に働く主圧力によって発生した横ずれ断層型と考えられ，1985年10月18日の能登半島北方沖の地震 (M5.8)²⁾ の逆断層型メカニズムとはかなり異なる。

4/29 には乗鞍岳西南方の高根村上ヶ洞付近で，3/7 の M5.2 の地震¹⁾ の最大余震 M4.2 (4) が発生¹⁾ し，第2図に示すように6月末迄に定常観測網で約100個の余震が観測された。これらの余震は半径2km程度の狭い範囲の深さ3-4kmに集中して発生している。第3図は1985年7月より1986年6月迄1年間の飛騨山脈南北方向沿いの地震活動の時系列分布を示す。これから明らかなように，3/7の本震前約40日間と，4/29の最大余震前約25日間は活動の空白期であったことが注目される。また $M \geq 3$ のやや大きい地震は1985年8月以降，北方より南方へ移動しているように見える。

さらに飛騨地方北西部の活動としては，第1図に示すように，6/6に牛首断層西部北側で M2.1 を含む群発地震 (7)，6/7より富山県南西部の清水断層南側で M3.9 を最大とする群発活動 (8)，次いで6/9より6/10にかけて金沢市東方約10kmの医王山付近（御母衣断層北端付近）に M3.5 - 4.0 の地震5個 (6/9 11:23 - M3.4, 20:41 - M3.9, 21:14 - M4.0, 21:27 - M3.6, 6/10 00:12 - M3.5) を含むかなり特異な群発地震活動 (9) が発生，このうち3回は金沢市で震度1の有感を記録した。最も近い福光観測点 FMJ では6月15日迄に237個の微小地震を観測したが，この活動は短期間で終息した。第4図はこのうちやや大きい48個の群発地震の分布を示し，御母衣断層北端付近で分岐した西側の断層の活動と思われる，震源の深さはすべて5-6km程度である。第5図 (b) はこのうち2個の地震のメカニズムを示すが，NWN-SES 方向の節面の走向が御母衣断層の走向とほぼ一致するので，この断層に沿う逆断層成分を含む左横ずれ型と考えられる。

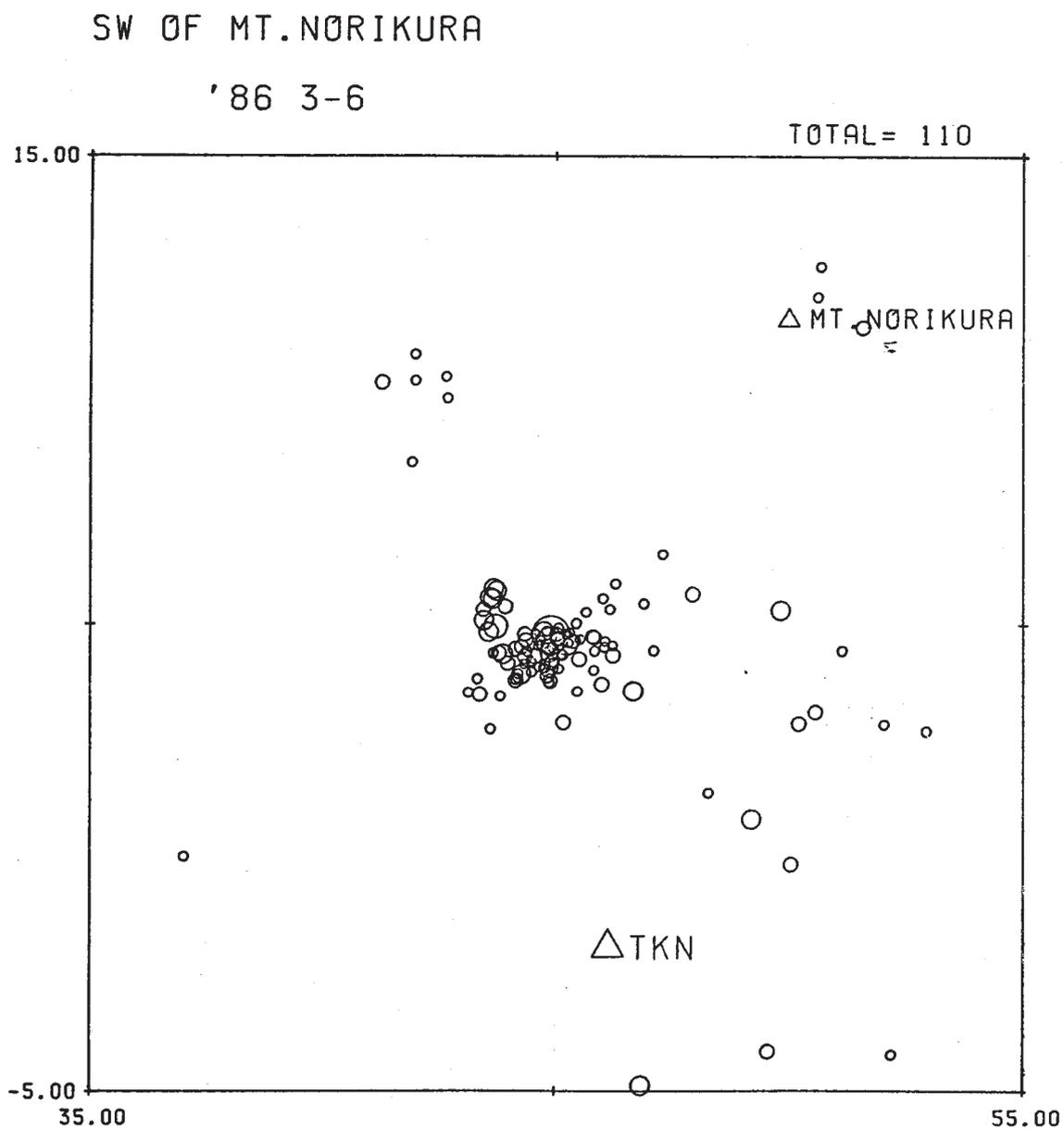
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の最近の地震活動（1985年10月－1986年3月），連絡会報 **36**，296-304，1986.
- 2) 同 上，連絡会報 **35**，148-152，1986.



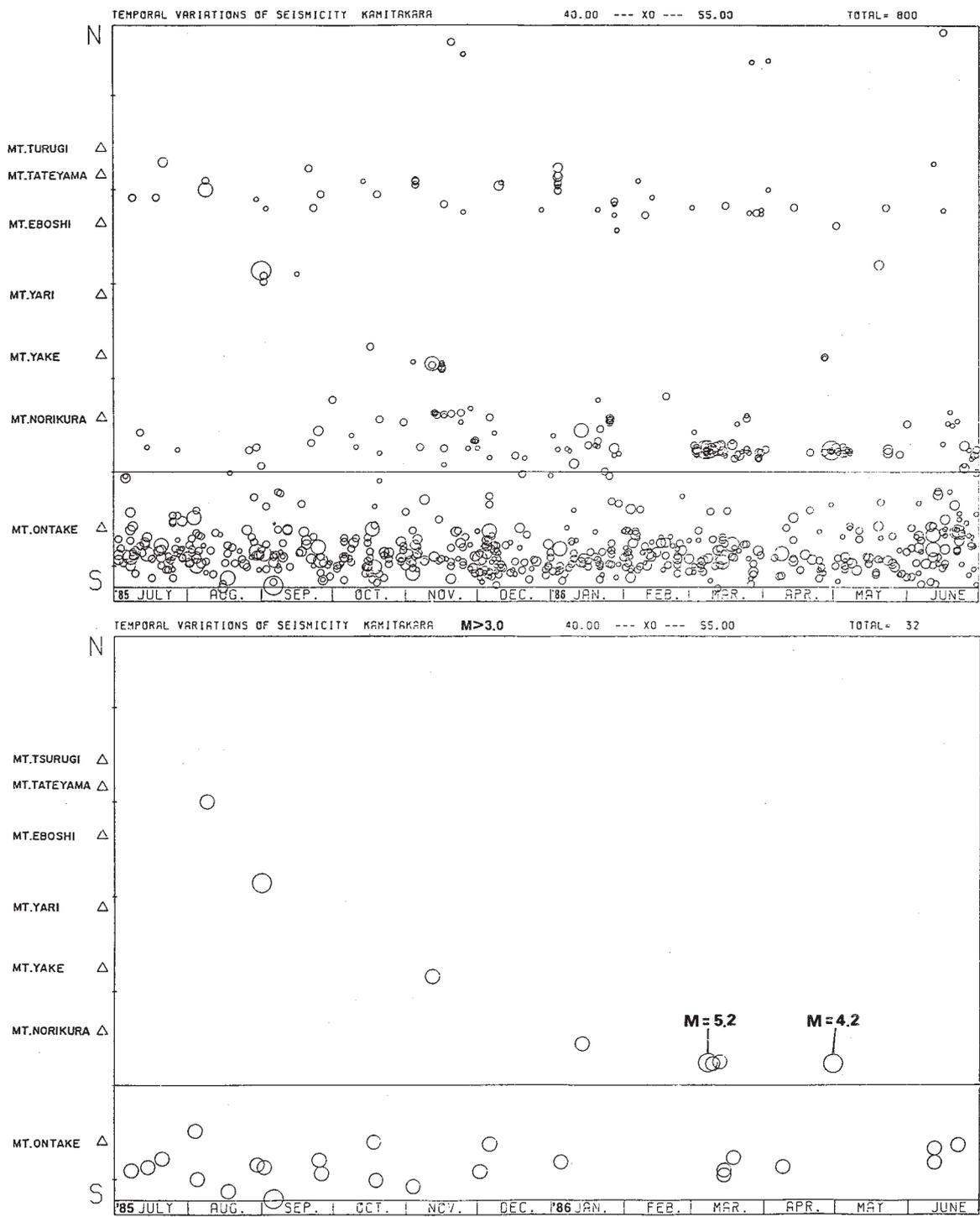
第1図 中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動1986年1月－6月。

Fig. 1 Seismicity in the Northwestern Chubu region including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula regions, January 1-June 30, 1986.



第2図 乗鞍岳西南方の余震活動 1986年3月-6月

Fig. 2 Aftershock activity of the March 7, 1986 shock (M5.2) in the region southwest of Mt. Norikura, March - June, 1986.



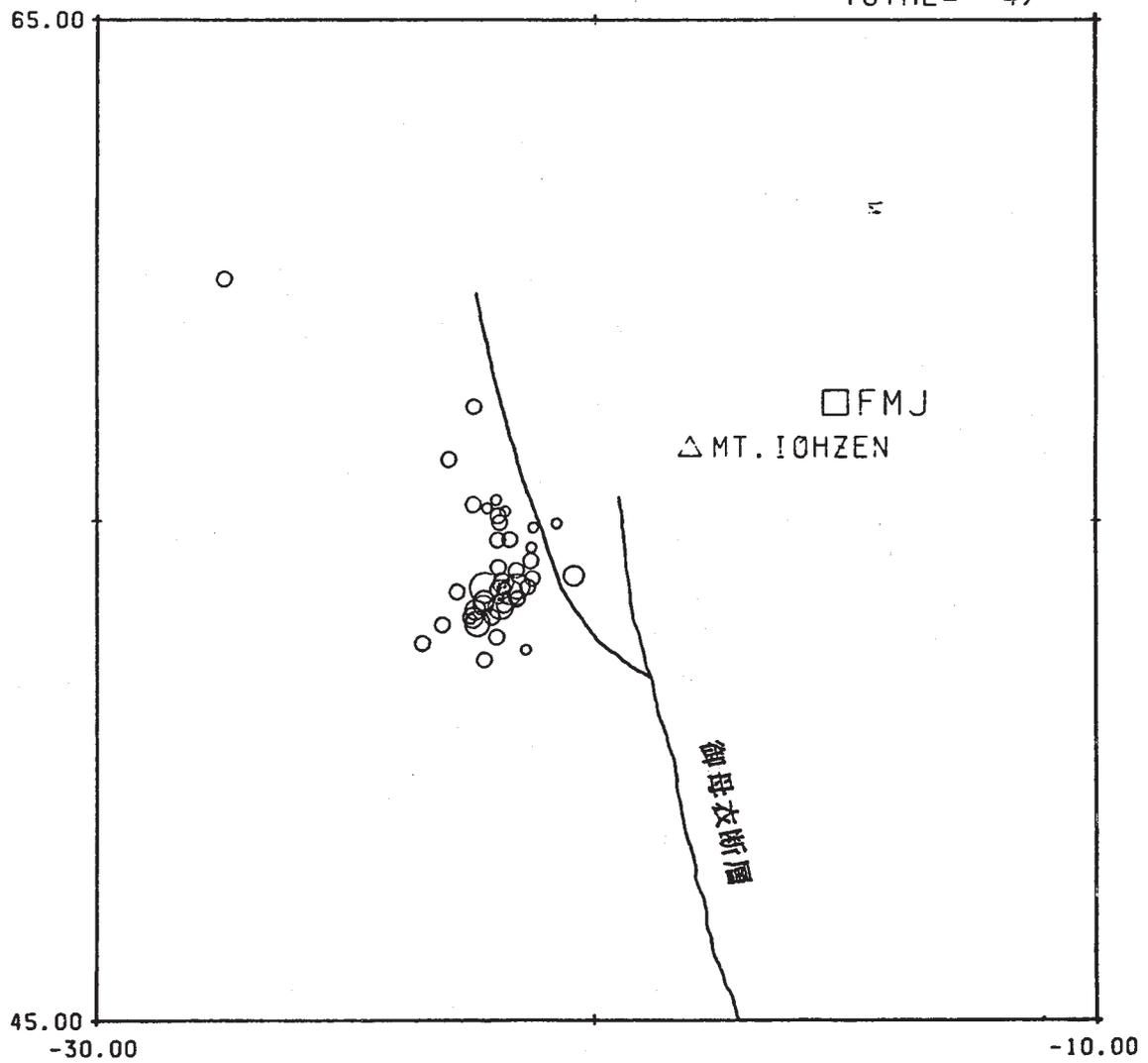
第3図 飛驒山脈 N-S 方向の地震活動の時系列分布
 1985年7月 - 1986年6月

Fig. 3 Space-time plot of seismicity beneath the Hida mountain range, July, 1985 - June, 1986.

9 NEAR MT. ICHZEN

'86 JUNE

TOTAL = 47

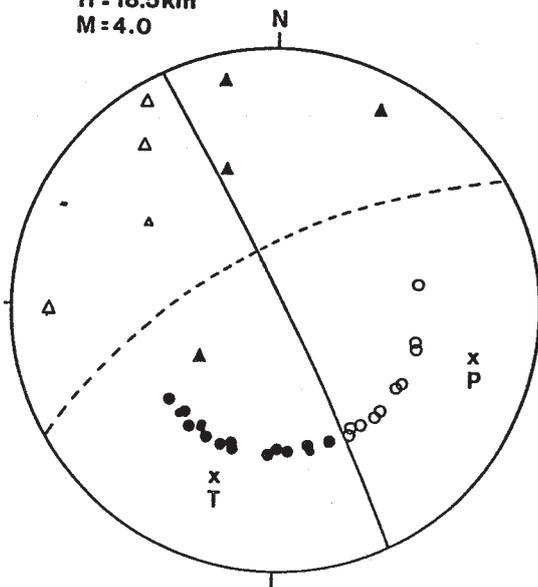


第4図 金沢市東方医王山付近（御母衣断層北端）の地震活動
1986年6月

Fig. 4 Seismicity near Mt. Iwozen west of the northwestern end of the Miboro fault, June, 1986.

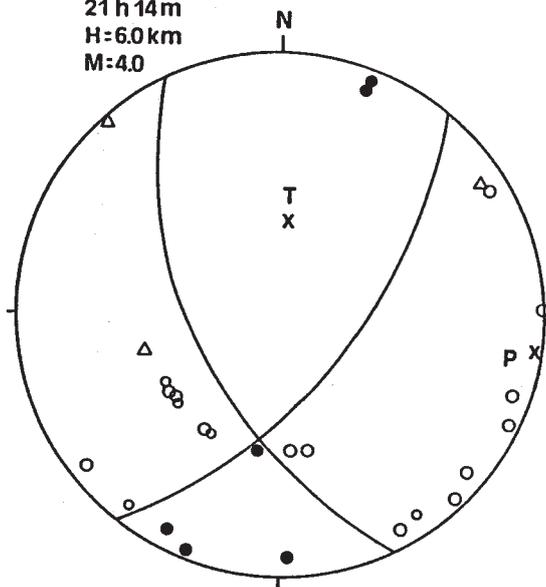
メカニズム

Apr. 14, 1986
10 h 39 m
H = 18.5 km
M = 4.0



3 能登半島南部の地震 (1986,4.14)

June 9, 1986
20 h 41 m
21 h 14 m
H = 6.0 km
M = 4.0



9 御母衣断層北端付近の地震 (1986,6.9)

第5図 主な地震のメカニズム (下半球投影)

Fig. 5 Fault plane solutions of two major shocks (projected onto the lower hemisphere of the Wulff net).
(a) for an earthquake in the southern part of the Noto peninsula, April 14, 1986.
(b) for two earthquakes near the northwestern end of the Miboro fault, June 9, 1986.